



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道馬鈴薯の始まり
Author(s)	高倉, 新一郎
Citation	季刊農業経営研究, 2, 3-4
Issue Date	1956-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36238
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_3-4.pdf



農業機械化の 速度

渡 辺 侃

今から 60 年程前の明治 22 年の 2 月に、北海道庁第 2 部から出版した「北海道農業手引草」という小冊子に、農具を使うことが書いてあるが、それは一方、鋤鎌を使つて開拓する小農と、他方、馬力で動かす農具を使う大農との経営法をいつている。特に後者は、プラウ、ハローは勿論、モーター、リーパー、それからスレッシャーまでである。

スレッシャーの動力は「踏車〈トレッドミル〉」といい、馬 2 頭を傾斜無限廻転度につないで起すものであつて、実物は札幌農学校の農園にあつたものを見た事がある。動物虐待の甚だしきものであつた。

30 年程前、私は米国を旅行し、インターナショナル・ハーヴェスター会社で、コンバイン〈ハーベスター・スレッシャー〉をまだ少数作つているのを見たが、動力の牽引車〈トラクター〉はな^なが^なれ^な作^な業^なの増産に入つていた。大量の堅材を露天にさらし、1 年位置いて、狂わないようにし、それから削つて部分品を作り、組立てるものであつた。

即ち、第一次世界大戦時代を境にして、米国農業は機械化され、北海道農業はやつと所謂大農具を利用するようになったので、約 50 年のおくれがある。

尤も、畜力発動機の代りに、石油発動機が入り、それを車にのせ、その動力で歯を動かす日本式のトラクターが出ている。

最近、米・英・独から牽引車〈トラクター〉を輸入するようになり、十勝等で大分使つている。しかし、どうも経済的とはいえない。馬ならば数万円でまに合うところを、石油発電機で十数万、本当のトラクターに附属品をつければ百数十万となる。馬は最近「伝食」等にかかり安全でなく、飼料燕麦を作る土地が惜しい等の欠点があるが、万能的で草や藁を喰ひ、肥料を出すのでまだまだ経済的である。

農業が機械化するのに 50 年にかかるだろう。機械は大量生産すれば廉価になり得るだろう。機械を応用出来るように経営面積を大農化出来るか。農業人口を少くし能率を増進し、廉価な農産物を生産するような全機構の改革となる。農業人員の全人口に対する比率が印度や中国で 75 %、日本で 45 %、米国や欧米諸国で 25 %というのは、かかる進歩を示している。唯、そうなる経過が複雑で困難と思う。

コーリン・クラークが進歩の条件として第 1 次産業〈農林、水産及び鉱業〉が減じ、第 3 次産業〈商業、サービス業〉等が増加することをあげているが、それには第 1 次産業が能率をあげることが必要なのである。むしろ、第 2 次産業の工業及び建築業が発達して、やつとそれが出来るので、進歩の条件というよりは進歩の結果を考える方がよい。

私は 33 年位の一代〈ワン・ゼネレーション〉で進化があると

思うもので、第 1 次大戦後の日本における小型発動機の取入れが、それを車にのせた日本型トラクターまで進化をとげ、今後 33 年で本当のトラクターの取入が完成すると思う。

(北大教授農博)

北海道馬鈴薯 の始まり

高 倉 新 一 郎

北海道の名産、馬鈴薯が北海道で作られ始めたのは何時の頃からか。

多くの書物では、寛政年間北海道探険家として有名な最上徳内が、虻田で蝦夷に種薯を与えて作らせたのが最初だとしている。私も「新撰北海道史」第 2 巻通説 1 を編集した際、先人の説をそのまま採つておいた。ところが、この説の起源は、寛政 10 年、最上徳内が、同じく北海道の探険家として有名な、近藤重蔵に宛てた書状によつたものらしい。その書状には次の文言がある。

口 達 覧

1) アブタ蝦夷共江 相渡候^{ごしやう}ご^ご芋^芋の種は右の外何方の場所江 相渡候哉

1) 蝦夷共江 種物相渡候儀差留候儀有之候哉

御 答 書

1) アブタ蝦夷共江 相渡候^{ごしやう}ご^ご芋^芋の種相渡候哉御尋御座候、定而通詞・番人共芋種致持参自分食用にも作り、蝦夷共へも為作候事に奉存候

1) 種物相渡候儀差留の事も

無御座候

とあつて、徳内が与えたものではなく、すでに当時虻田に作られていたことを語っている。

馬鈴薯、即ちごしやう芋はそれから数年前信州から松前にもたらされ、作られていたのだつた。今「北海道の殖産」第31号を見ると、福山の今泉という人が「北海道において馬鈴薯を作りたる元始」と題して、左の文書を紹介している。

伊豆守殿仰には、俾等は如何に候哉

御 答

稗・蕎麦は在所百姓共余り不好候 其仔細は稗・蕎麦実のり候て刈候五六日中に風吹きもまれ候て 実物不残振落し候物に候故在所は春秋冬等者兎角風荒く候故 年々ケ様之儀有之候。近年私家米上方用事有り罷越帰国の節信州地にて五升芋と申芋を三つ持参いだし、夫を蒔候所、甚土地に合、芋一つより小芋四五十に成り候故、国民飢を凌ぎ候品に者宜敷と段々植えひらげ、当時東在百姓仕馴候て、飢饉有之候とも一二月の用意には可相成と存候 と申上候 伊豆守殿戸田殿夫れは一段の事之由被仰候

寛政十年年正月十三日

ここに、伊豆殿というのは幕府の老中松平伊豆守信明、戸田殿というのは同戸田宗女正氏教である。答えたのは当時隠居を命ぜられていた前松前藩主松前道広であろう。この年、幕府はその前年 相續いて絵鞆に英国探険家プロウトンに率いられた

探険船が寄港したため、北辺防備をゆるがせにすることが出来ないことを悟つて、幕吏を派遣して北海道を調査させ、遂に11年から直轄に着手することになったのである。幕府も出来るだけ手を尽して、北海道の事情を調べたが、老中は隠居松前道広を招いていろいろと聞き糺したのである。紹介された文書はこの旨を語つたものと思われる。これによれば、当時かなりの面積に馬鈴薯が作られていたのであるが、最初は家臣の一人が信濃国から持帰つた三つの種芋からふえたものであつた。

当時松前は天明以来鯉が不漁で住民が困窮し、藩は農業を奨励していたのである。この時もたらされたごしやう芋は歓迎されたに相違ない。

漁民の救済作物として入れられた馬鈴薯は然しながら、余り目立つた産額ではなかつたと見え、当時の北海道各地で作られた作物の中には挙げられて居らず、僅かに寛政12年、白糖に移住した八王子同心の作つた作物中にその名を見るのみだつた。その本当に普及を見たのは、安政以後函館が開港され、外国船が食糧として多くこれを買うようになってからのことである。

(北大教授農博)

農業技術の 經營的普及

堀 口 逸 雄

戦後、農業試験研究機関の整

備総合計画が進められた際に、国立の地域農業試験場をどこにおくかということから、農業地域の問題が論ぜられた。結局、予算とか既存施設の利用という面が主となり、そこに地域性も考えられて全国7地域（後8地域）に設立されたが、各都道府県にはそれぞれ地方費で農業試験場が運営され、昭和25年度から発足をみたわけである。

従来、農業試験場という種芸、肥料、病虫害などの部門が主体をなしていたものであるが、整備総合計画の発足とともに、農業経営の部門が加えられるようになったことは、農業改良に対する総合的な考えかたが出てきたという点で、記憶されるべき一段階を画したものとえよう。

ところで、試験場の経営研究部門でとり上げる課題とか方法については、これまた大いに論議されたものである。経営という総合体から作物の品種、土壤肥料、耕作、病虫害などのいわゆる技術問題、あるいは労働の問題、さらには経済の問題というように専門的に研究されている問題をとり去つてみれば最後に何が残るだろう——街のストリップならば、いろいろな衣裳をぬぎすてた最後に具体的なもの期待されるわけであるが——農業経営では、これこそ経営であるという形をもつたものが残るとは考えられない。

しかしその反面、経営という総合体の中で、経営的な立場から考えをすすめて行けば、どんな課題を対象にしても経営研究は成り立つてくるという点にも